

京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第22回〕 ～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2024年 **2**

学生広報チーム × 有限会社 昇苑くみひも 伝統を大切にしながら、新しい事にチャレンジ

大学の魅力を発信しするだけでなく、地域の課題解決活動にも取り組む「学生広報チーム」が、様々な方々とのつながりを大切に地域密着型の事業展開をされている「昇苑くみひも」取材しました。

【伝統工芸を時代に合わせて新分野へ】

紐には、大きく分類して3種類ある事をご存じでしょうか。私たちは今回の取材で初めてその事実を知りました。縦糸と横糸を直角に合わせ織った「織紐」、糸の束を撚り合わせた「撚紐」、そして、数十本合わせた糸の束をいくつかの玉に巻き、斜に交差させながら組む「組紐」です。



取材の様子

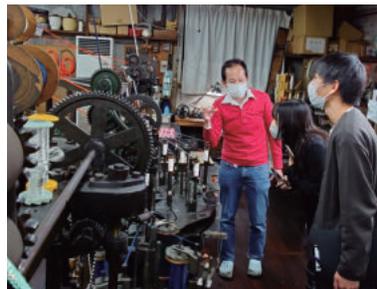
昇苑くみひもさんは、変化する時代の中で、「組紐」の取り扱われ方を工夫し続け、需要を作り続けておられます。創業当時は、手組だけの生産体制にて、帯締めや髪飾りなどを作られていましたが、現在では、機械を導入されるなど、生産体制の拡充を背景に、宝石を埋め込んだプレスレットとしての組紐や、インテリアとしての壁掛け、アパレル紐を組紐に、寺社仏閣のお守り、医療関係では腰負担軽減ベルトなど、幅広い業界の方々に「組紐」を供給されています。

一方で、店舗にて手組体験教室を行われるなど、手組文化を大切にされる様子を見守る事もでき、伝統を大切にしながら進化し続けられる姿勢に感銘を受けました。

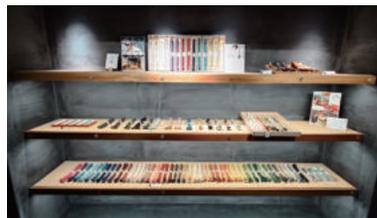
【“色”にかける熱い思い】

取り扱われる製品の特長や美しさとの関係性が深い「色」について、お話を伺うことができました。最初に伺ったのは染めの工程についてです。化学染料を用いて鮮やかな色を表現される事が多いですが、時に、自然にあるものから唯一無二の「色」で染められるそうです。例えば、伐採が決定している比叡山の桜を再利用され、時間をかけて自然由来の色を抽出されました。自然由来の「色」には独特の美しさがある一方、注文を受けた内容と一致させる事や、同じ色を再現する事の難しさがあり、事業化する為には様々なハードルがあります。それでも良い商品をお客様にお届けする為にチャレンジを続けているとお教え頂きました。

能勢部長から頂いたお名刺からも「色」へのこだわりを感じました。お名刺の色が、一枚一枚違う色だったのです。名刺の裏面には「鶯色（うぐいすいろ）/声も姿も美しい春の鳥の色」など、説明がされており、名刺交換の際、これを切っ掛けに会話が生まれ、緊張を和らげて頂きました。



工場を見学



昇苑くみひも 店内

【チャレンジし続ける姿勢】

AIやロボットが社会での活躍を見せ始めている現代において、伝統工芸を仕事にする人間の将来性を伺った時、「人が人にあこがれる状況が続く限り、人間の仕事はあり続ける」とお答えいただいた事が深く印象に残っています。なるほど、歴史や伝統を大切にされながらも、アニメやゲームなど、新しい文化を伝統工芸の一部として取り入れておられる昇苑くみひもで働かれる皆さんへのあこがれは途切れないだろうと、納得すると共に、こころに深く響きました。

【今回の取材先】

昇苑くみひも

1948年創業。和装分野において、帯締めや髪飾りなどを作る工房としてスタート。最近ではジュエリーやインテリア、アパレルから神社仏閣、さらには医療関係など幅広いジャンルでの用途を実現している。



店舗入口

【今回の取材担当】

学生広報チーム

高校生などに向けて京都文教大学の魅力を全力で発信する、入試広報課直属の大学生団体。企業や行政のお力をお借りし、地域と連携した活動にも精力的に取り組んでいる。総勢50人で活動中。



左から、嶋田響（臨床心理学部1年次生）、木下若加葉（こども教育学部1年次生）、昇苑くみひも 能勢将平部長。

《学生広報チームInstagram》



@GAKUSEI_PR

大学生の活躍や、大学の魅力を発信しています。もしよろしければフォローお願いします。